

製品名: CD83 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08469**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	23kDa

抗原情報

遺伝子名	CD83
別名	CD83; CD83 antigen; hCD83; B-cell activation protein; Cell surface protein HB15; CD antigen CD83
遺伝子 ID	9308.0
SwissProt ID	Q01151
免疫原	抗血清はヒト CD83 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 101-150

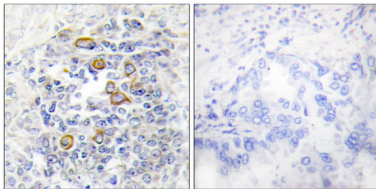
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、I型膜貫通型タンパク質であり、免疫グロブリン受容体スーパーファミリーに属しま

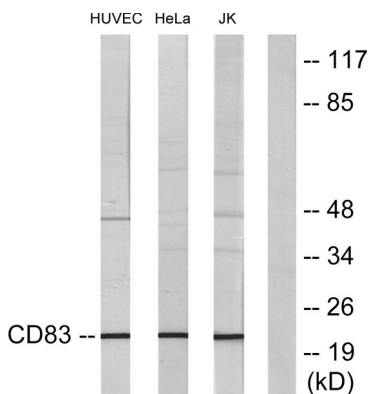
す。コードされるタンパク質は、抗原提示の調節に関与している可能性があります。可溶性タンパク質は樹状細胞に結合し、その成熟を阻害します。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする3つの転写バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2011年10月]機能: 抗原提示、またはリンパ球活性化後の細胞間相互作用において重要な役割を果たす可能性があります。、オンライン情報: CD83 抗原類似性: Ig 様 V 型 (免疫グロブリン様) ドメインを1つ含む。、サブユニット: モノマー、組織特異性: 活性化リンパ球、ランゲルハンス細胞、および指状小胞体細胞で発現します。、

研究分野

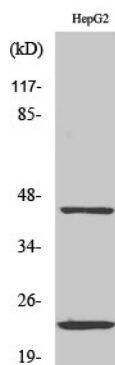
画像データ



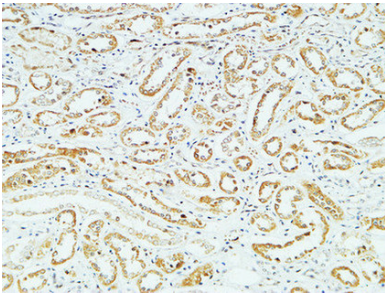
CD83 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。



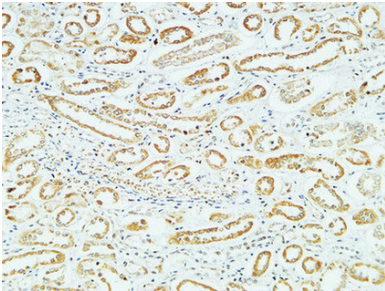
CD83 抗体を用いた HepG2 細胞、HUVEC 細胞、HeLa 細胞、Jurkat 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



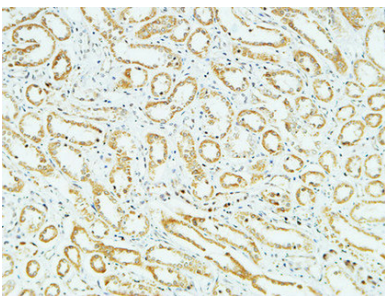
CD83 ポリクローナル抗体を 1: 500 に希釈して様々な細胞をウェスタンブロット分析した。



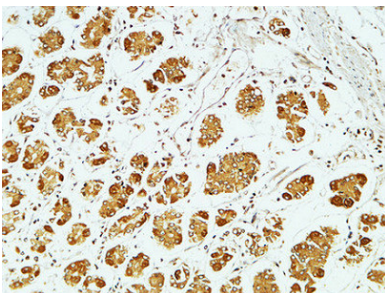
パラフィン包埋ヒト腎臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:400 (4°、一晚) に希釈した。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。



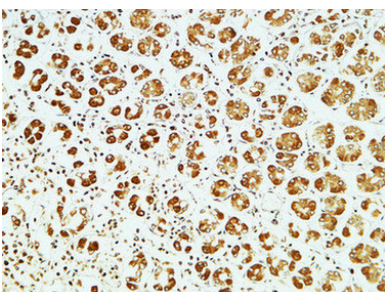
パラフィン包埋ヒト腎臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:400 (4°、一晚) に希釈した。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。



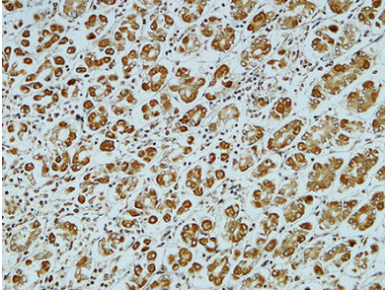
パラフィン包埋ヒト腎臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:400 (4°、一晚) に希釈した。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。



パラフィン包埋ヒト胃の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:400 (4°、一晚) に希釈した。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。



パラフィン包埋ヒト胃の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:400 (4°、一晚) に希釈した。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。



パラフィン包埋ヒト胃の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:400 (4°、一晚) に希釈した。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。